

2010 年度ゼミ活動紹介

第7期ゼミ長 氏田 宗利

小野ゼミ OB・OG の皆様、いつもお世話になっております。小野晃典研究会第7期ゼミ長の氏田宗利です。今年度もお忙しい中、OB・OG 総会にご出席して頂き大変ありがとうございます。私からはゼミ生を代表して、今年度のゼミ活動について、ご紹介させていただきたいと思っております。



少くして学べば壮にして為すあり。
壮にして学べば老いて衰えず。
老いて学べば死して朽ちず。

これは、幕末最高の儒学者の1人である佐藤一斎の『言志晩録』に出てくる有名な言葉です。小野ゼミ OB・OG 皆様は、まさに「壮にして学」ばれている、その真っ只中にいらっしゃると思いますが、翻って、我々現役小野ゼミ生に目を移しますと、この言葉は、『なぜ小野ゼミが「エグゼミ」たるか』という疑問に1つの解答を示す箴言であるかのように感じます。現役小野ゼミ生は、「壮にして為す」ために今、「少くして学」んでいるのではないのでしょうか。

ここでは、我々現役小野ゼミ生が「少くして学」ぶために、今年度どのようなゼミ活動を行ってきたかを、簡単ではありますが、網羅的にご紹介させていただきたいと思っております。

今年度は、新たに第8期生18名を迎え入れ、個性豊かな第7期生17名、中国・韓国・モロッコからの留学生3名を含める大学院生6名の、総勢41名という非常に賑やかな顔ぶれで、ゼミ活動を開始いたしました。第8期生の入ゼミ試験の翌日3月26日には、商学会賞授賞式が挙行され、小野ゼミから3本の論文がこの栄誉を勝ち取り、4月には、昨年度から始まった新規プロジェクトである英語論文執筆プロジェクト（通称：英論）によって執筆した論文が、サンフランシスコの国際eビジネス学会において、優秀研究論文賞を受賞するなど、幸先の良いスタートとなりました。

3年生にあたる第8期生は、前期には、基礎文献レポート、多変量解析実習、ケース・メソッド、ディベートといった多様な活動に取り組み、後期には、ゼミ活動のクライマックスである三田祭論文の執筆に全力を注ぎました。4年生にあたる第7期生は、卒業論文執筆といった個人作業から、多変量解析技法のレクチャー資料作成や夏ケース開題、ゼミ運営に関する後輩指導といったゼミ全体に関わる場所まで、幅広くゼミ行事に取り組みました。大学院生は、現役小野ゼミ生のベスト・オブザーバーとして、三田祭論文・卒業論文の徹底指導、現役小野ゼミ生のアウトプットに対してのゼミでの鋭いコメントと、影に日向に大活躍していただきました。

「世代」といった縦軸から今年度の活動をご紹介しますと以上ようになりますが、「活動」といった横軸から今年度の活動をご紹介しますと、まず、研究活動面では、義塾の内部、外部、さらにはグローバルに繋がりをもった1年でありました。塾内では、いわゆる「マケ論」、「インゼミ」の発表会の他に、高橋郁夫研究会・清水聡研究会との3ゼミによるインゼミ・イベントが2度も企画されました。塾外では、中央大学久保知一ゼミナール・関西大学岩本明憲ゼミナールとの3ゼミ対抗のディベート大会が催されました。グローバルという観点では、マーケティング研究の第一線でご活躍されている海外のマーケティング学者の講演会に2度参加し、小野先生がカリフォルニア大学でご研究されていた際の指導教授であるノーベル経済学賞受賞者オリバー・E・ウィリアムソン教授の講演会にも出席いたしました。

課外活動面では、一昨年度に商ゼミソフトボール大会で優勝し強豪ゼミとしてならした小野ゼミも、今年度は商ゼミソフトボール大会において予選敗退でした。しかし、兄弟ゼミである高橋郁夫研究会との試合では、ピンチヒッター小野先生の奇跡的なサヨナラ・ヒットで一矢を報いました。2年連続3位とこちらも名門ゼミとしてならしているフットサル大会では、今年は準優勝という結果でした。ここまで、確実にレベルアップを果たしているのです。来年度にご期待ください。特筆すべき事項といたしましては、春秋ともにゼミで六大学野球慶早戦を観戦し、なかでも春は、サブゼミを明治神宮球場の青空のもとに開き、義塾野球部のリーグ優勝の瞬間に立ち会えたことが挙げられます。感動のあまり涙するゼミ生もいました。

入ゼミ活動面では、今年度も小野ゼミは、「エグゼミ」としての不動の評価を得る一方で人気ゼミの1つに列し、各入ゼミ説明会ではそれぞれ約150名の2年生に小野ゼミのブースに足を運んでもらうことができました。2度行ったオープンゼミではそれぞれ約50名の2年生を呼びこみ、小野ゼミの志願書を約80名の2年生に配布しましたので、現在は、そのうちの多くの2年生が、小野ゼミ独自のエントリー・シートと格闘していることだろうと思います。

私たち4年生は、小野ゼミ再開後3代目にあたる第7期生です。室町幕府や江戸幕府の例が示すように、3代目というのは、その組織の今後を占う上での1つのキーポイントであり、組織の熟成期・安定期でもあります。小野ゼミもその例にもれず、今年度は、昨年度に立ち上げた企画が、継続的に実施されることで、これらの企画が小野ゼミを構成する重要なイベントの1つとして位置づけられることになった1年であったように思います。昨年度に立ち上げた新規プロジェクトである英論は、今年も、インゼミ・チームがその論文を英訳する形で受け継がれました。また、昨年度より挑戦を開始した関西大学ビジネスプラン・コンペティション（通称：KUBIC）は、今年度も小野ゼミの有志が応募し、500組を超える応募者のなかから、2年連続で優秀賞を獲得しました。

「継続」だけでなく、「再開」された企画もありました。今年度は、第7期生が小野ゼミとしては1年ぶりに、三田祭に模擬店を出店しました。スンドゥブ・チゲを提供する「三田純豆腐鍋チゲ&アスカ」です。大好評を博し、三田祭の4日間で合計1,000杯以上を売り上げました。

「継続」や「再開」だけでなく、「新規」の企画もあります。それは、販促会議賞への挑戦です。これは、株式会社宣伝会議が発行する広告業界誌『販促会議』の名前を冠した、セールスプロモーションのアイデアコンテストです。日本を代表する協賛ブランドのプロモーションに関する課題について、具体的なアイデアを案出してパワーポイント10枚以内で表現します。そして、審査の結果、ファイナリストに残ると、「宣伝会議プロモーション&メディアフォーラム」で展示され、来場者の投票によって、各賞が決定さ

れます。今年度は、小野ゼミ第7期生有志が第2期OGと共に挑み、342点の企画の中からシルバー賞に選出される栄誉に浴しました。

さて、来る3月24日は今年度の商学会賞授賞式があります。小野ゼミからは今年度も、第7期生有志が投稿した論文が、商学会賞を獲得しています。この受賞で、小野ゼミでは、ゼミ再開後、4年連続での受賞者輩出となります。

最後になりましたが、OB・OGの皆様にはおかれましては、今年度も小野ゼミを現役生と共に盛り上げていただき、ありがとうございました。春合宿には、森本太郎先輩(第3期OB)、田中成幸先輩(第3期OB)がお越しになり、夏合宿には、高木研太郎先輩(第3期OB)、田中成幸先輩(第3期OB)、横山嵩先輩(第3期OB)、有吉智彦先輩(第5期OB)、石川大二郎先輩(第5期OB)がお越しになり、現役小野ゼミ生とともにお酒を飲み、語り明かし、スポーツ・レクリエーションでは汗を流していただきました。10月に開催された塾内就職ガイダンスには、神谷光俊先輩(第2期OB)がゲストスピーカーとしてご招待され、小野ゼミ第8期生を含める義塾の就活生に、仕事内容やご自身の就職活動のことについてお話ししていただきました。三田祭には、上記の諸先輩に加え、白木俊介先輩(第1期)、森岡耕作先輩(第3期)、河野智晃先輩(第5期)、田中照太先輩(第5期)、浅坂絵美先輩(第6期)がお越しくださり、8期生の研究の話聞いてくださったり、差し入れをしてくださったりしました。12月に行われたオープンゼミと、1月に開かれた第3回入ゼミ説明会には、松山昌司先輩(第5期OB)が駆けつけられ、小野ゼミへの入会を志す2年生に熱く語りかけていただきました。今年度最後の本ゼミには、高橋昌代先輩(第5期OG)が先輩の働かれていらっしゃる会社の人財部の方と一緒にゼミに來訪され、現役ゼミ生のケースの発表を聞いてくださり、実務的な観点からコメントをしていただきました。先輩方には、これからも様々な機会でお世話になると思われませんが、変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。



第2回オープンゼミ後に、ゲストスピーカーの松山先輩(第5期OB)と共に記念撮影